

講習会・勉強会活動報告

テーマ：「関節可動域制限に対する運動療法」

講師：京都大学大学院医学研究科

教授 市橋 則明 先生

日時：平成 25 年 4 月 21 日（日） 9:00～12:00

- 内容：1. 関節可動域制限因子の分類と評価
2. ストレッチングの種類による効果の違い
3. 凹凸の法則に従った関節可動域運動とその間違い
4. ストレッチングの実際

参加人数：約 120 名（医師 理学療法士 作業療法士）



今回の講習会では、3時間という限られた時間の中で、基礎的なものから最新の知見、さらに臨床におけるアプローチ方法まで幅広い内容を凝縮してご講義頂きました。

まず初めに、関節可動域制限の評価ではその制限因子の特定がポイントとなるというこ

と、そしてその特定のためには①エンドフィール②二関節筋を考慮した可動域の測定③患者の主観的感覚の3つが非常に重要であるという内容からスタートしました。そして、制限因子の違いによってさまざまなアプローチが存在する中で、可動域障害に対する代表的な運動療法としてのストレッチングと関節モビライゼーションに関して、市橋先生の研究結果を踏まえて具体的なアプローチ法について丁寧に教えて頂きました。



講義の後は質問待ちの列ができ、次回の開催を期待する声も多数聞かれ、本講習会は盛会の内に終了を迎えることができました。

市橋先生には、大変ご多忙の中、山口リハビリテーション病院にてご講義いただきましたことを改めて感謝しお礼を申し上げます。



（文責 理学療法士 西村英子）